

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2018 年 4～6 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲13 となり、足踏み状態となっている。経営上の問題点を見ると、4 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2018 年 4-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 20%で前回調査（2018 年 1-3 月期 18%）より 2 ポイント悪化、「好転」とした企業は 7%で前回調査（6%）より 1 ポイント改善した。景況判断 DI は▲13 となり、前回調査（▲12）より 1 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2018 年 1-3 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲6 で、7 ポイント改善
- ・処理量 DI は▲7 で、4 ポイント改善
- ・契約単価 DI は 5 で、6 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲13 で、4 ポイント悪化
- ・資金繰り DI は▲3 で、4 ポイント悪化
- ・借入難易度 DI は 7 で、1 ポイント悪化
- ・設備投資 DI は▲1 で、1 ポイント悪化
- ・従業員数 DI は 4 で、7 ポイント改善

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲14 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 7%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 4%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.55%で前回調査（5.32%）より改善した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」22.5%（前回 22.2%）が 4 期連続で 1 位となった。「人件費以外の費用増加」が前回の 4 位から 3 位に上昇した。

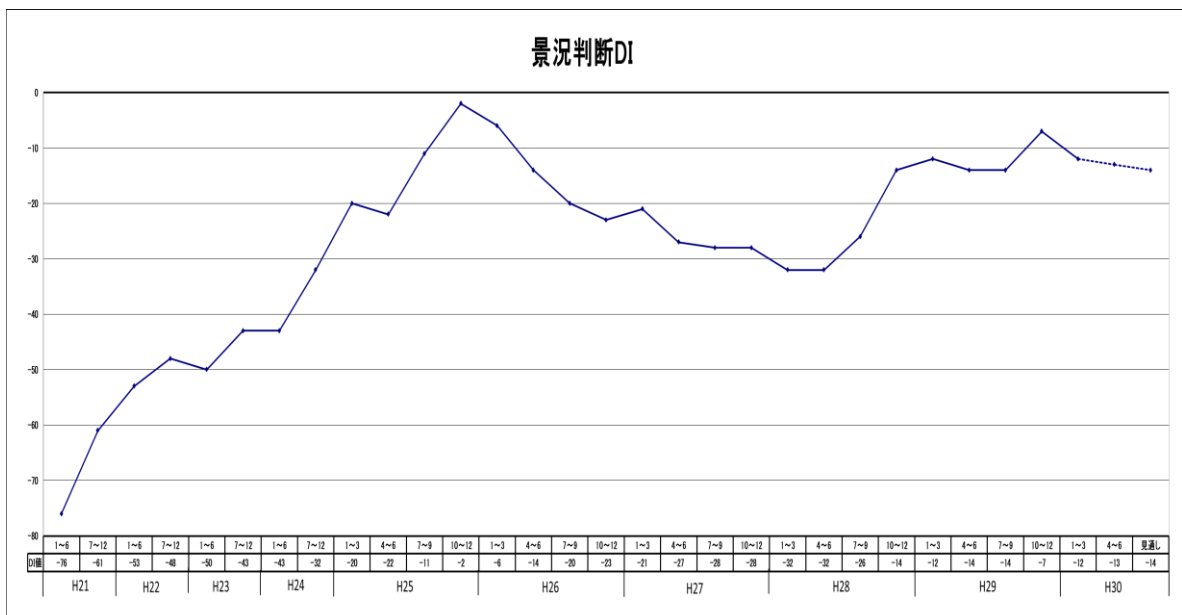
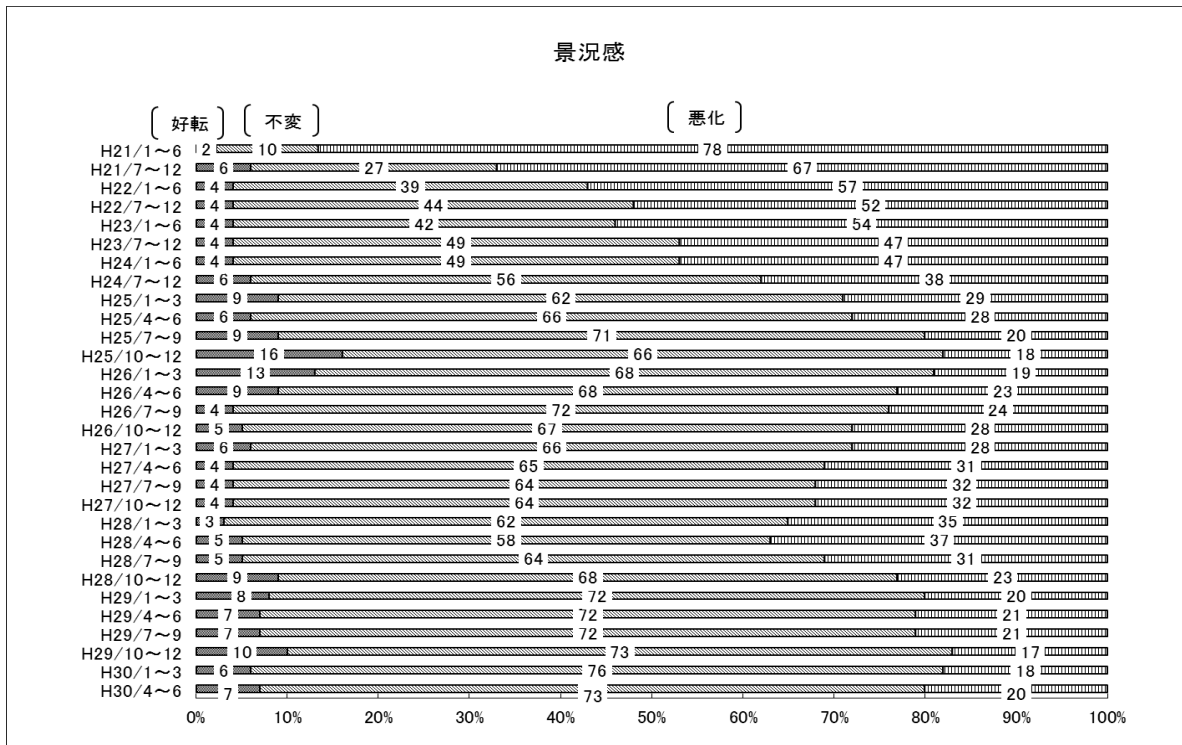
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

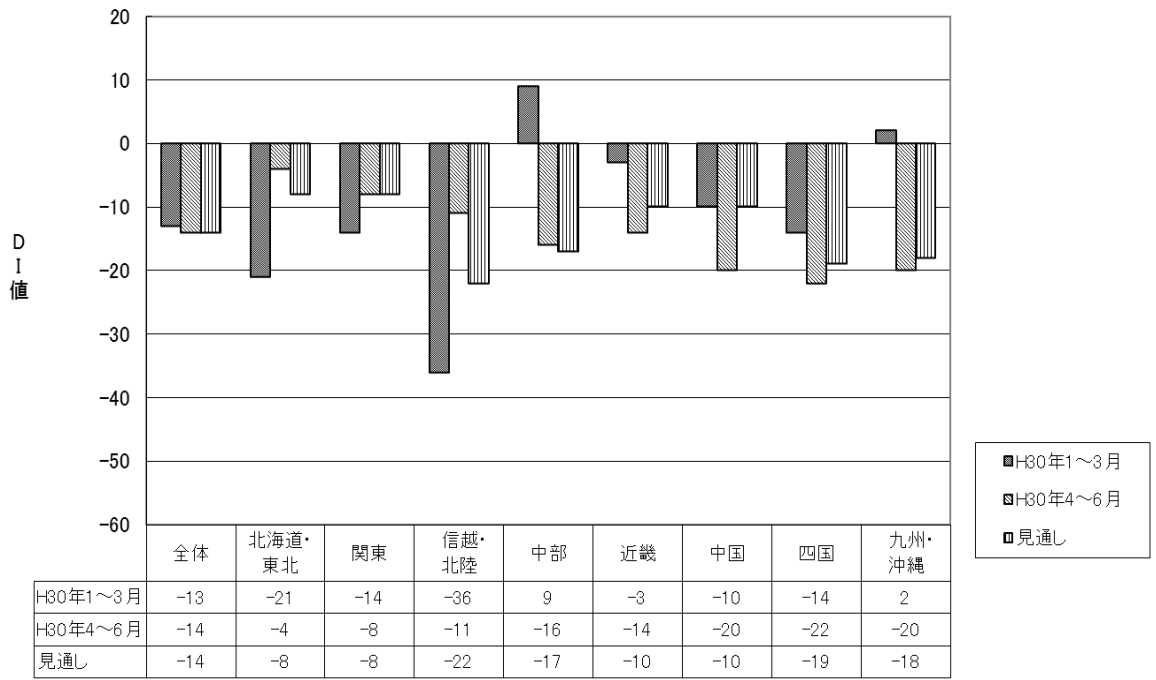
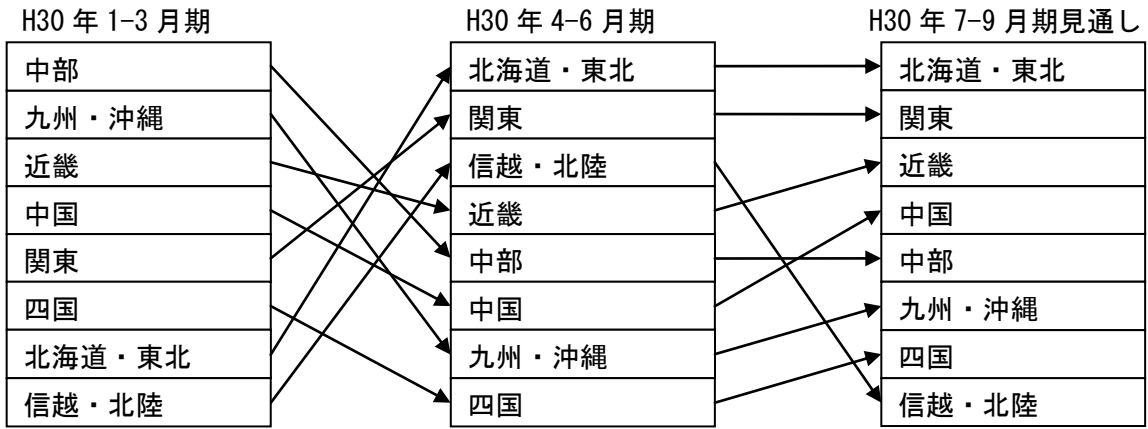
1. 景況感 DI (「好転」・「増加」－「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 全体の景況判断 DI は、今回▲13 となり、前回と比べて1ポイント悪化した。
見通しは▲14 となり、1ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI でみると、前回と比べて「中部」、「近畿」、「中国」、「四国」、「九州・沖縄」が悪化した。最も好調なのが「北海道・東北」となった。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI の見通しをみると、「北海道・東北」が最も好調となっている。(3 ページ参照)



地域別景況判断D I



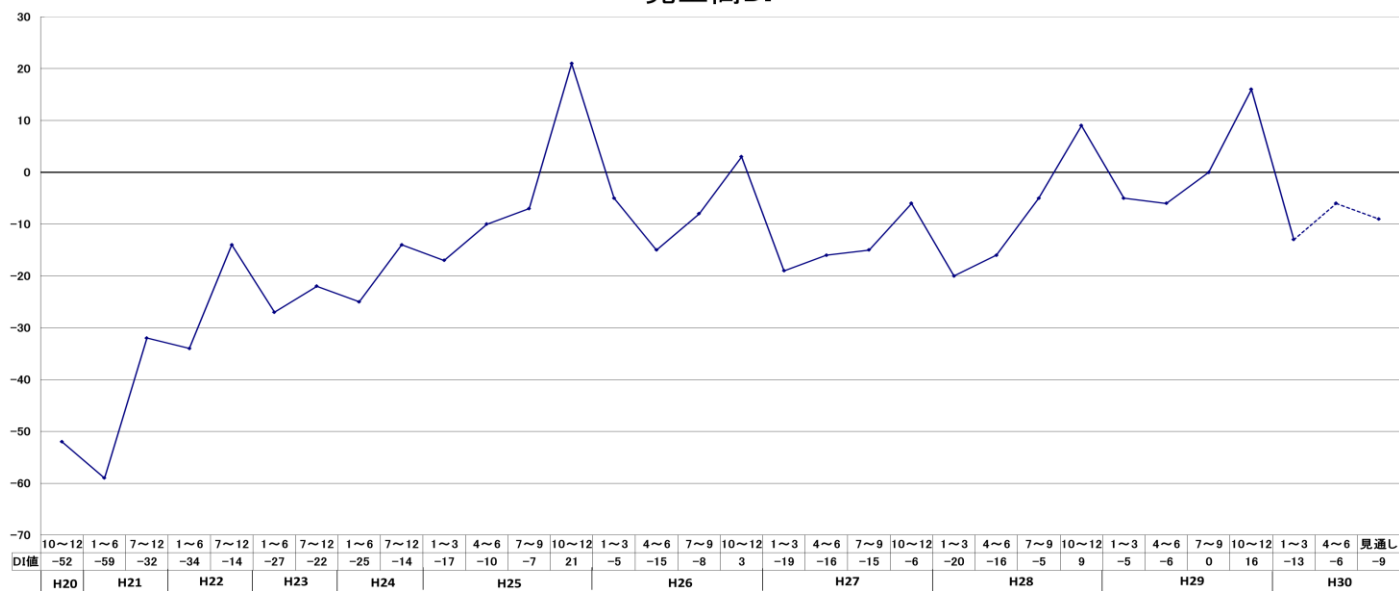
(2) 売上高 DI、処理量 DI、契約単価 DI、営業利益 DI、資金繰り DI、借入難易度 DI、設備投資 DI、従業員数 DI

- 前回と比べて売上高 DI・処理量 DI・契約単価 DI・従業員数 DI の 4 指標が改善した。
- 見通しは、全ての指標において改善が見られなかった。

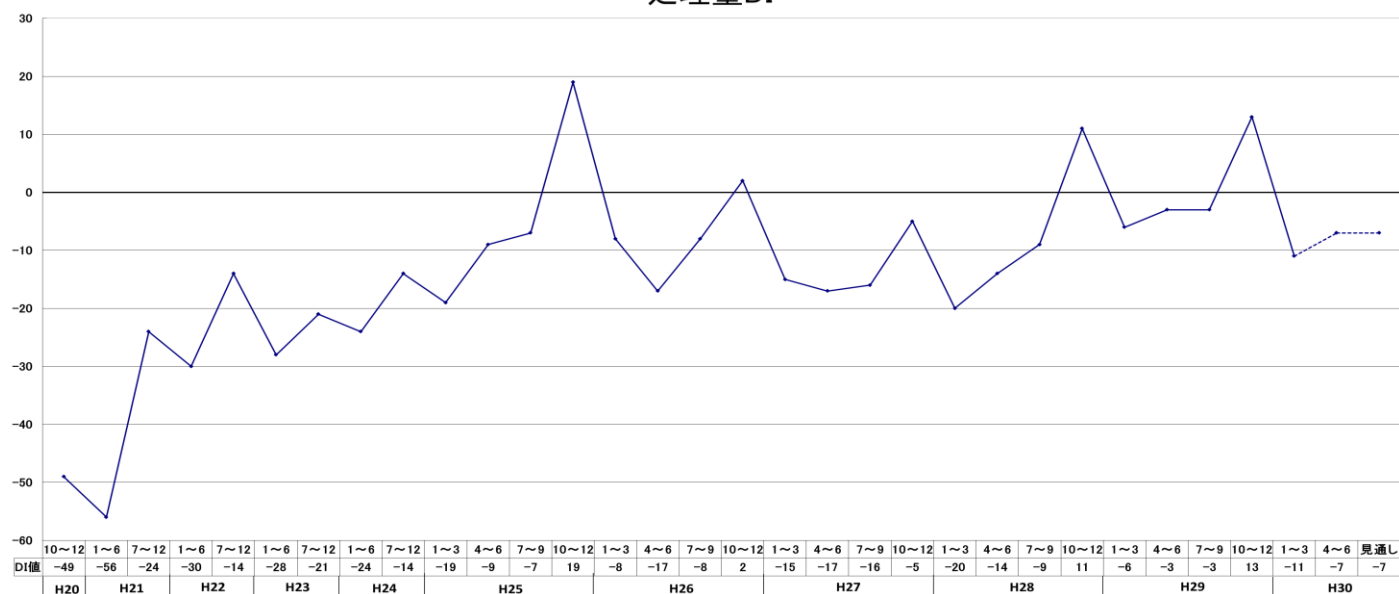
以下詳細（5 ページ参照）

- ・売上高 DI は、今回▲6 となり、前回と比べて 7 ポイント改善した。
見通しは▲9 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は、今回▲7 となり、前回と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは▲7 となり、同水準で推移する見込みとなっている。
- ・契約単価 DI は、今回 5 となり、前回と比べて 6 ポイント改善した。
見通しは 2 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は、今回▲13 となり、前回と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは▲14 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は、今回▲3 となり、前回と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは▲4 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は、今回 7 となり、前回と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは 4 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は、今回▲1 となり、前回と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは▲1 となり、同水準で推移する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は、今回 4 となり、前回と比べて 7 ポイント改善した。
見通しは 2 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。

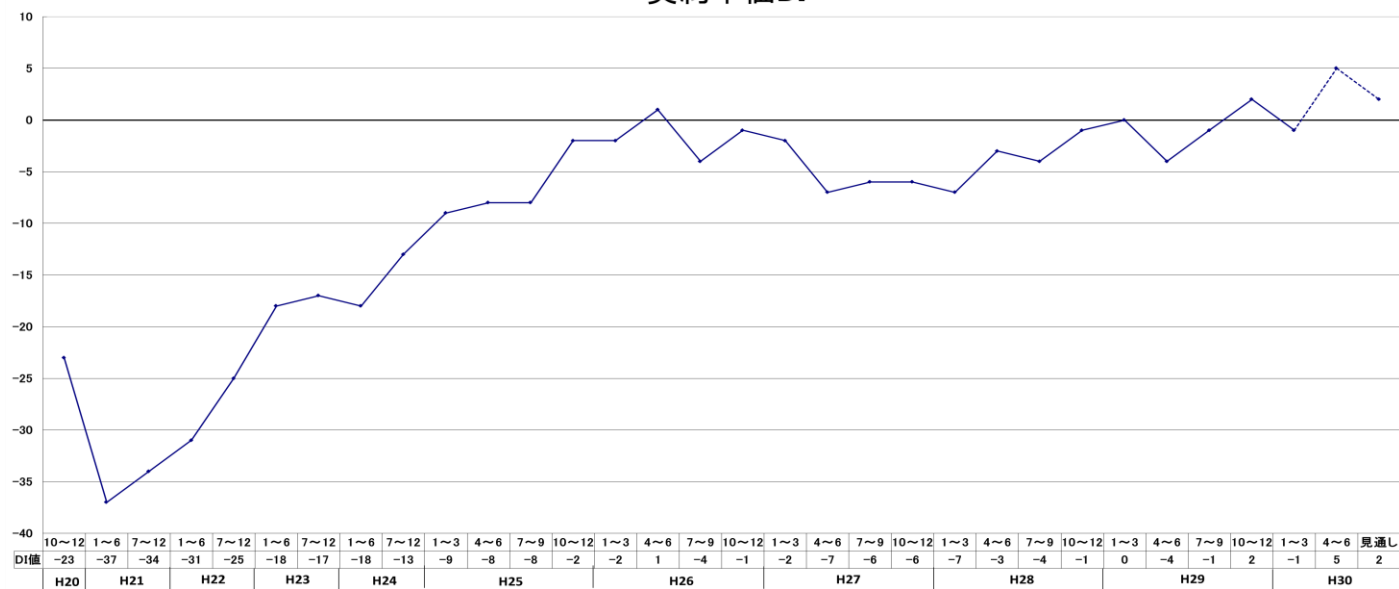
売上高DI



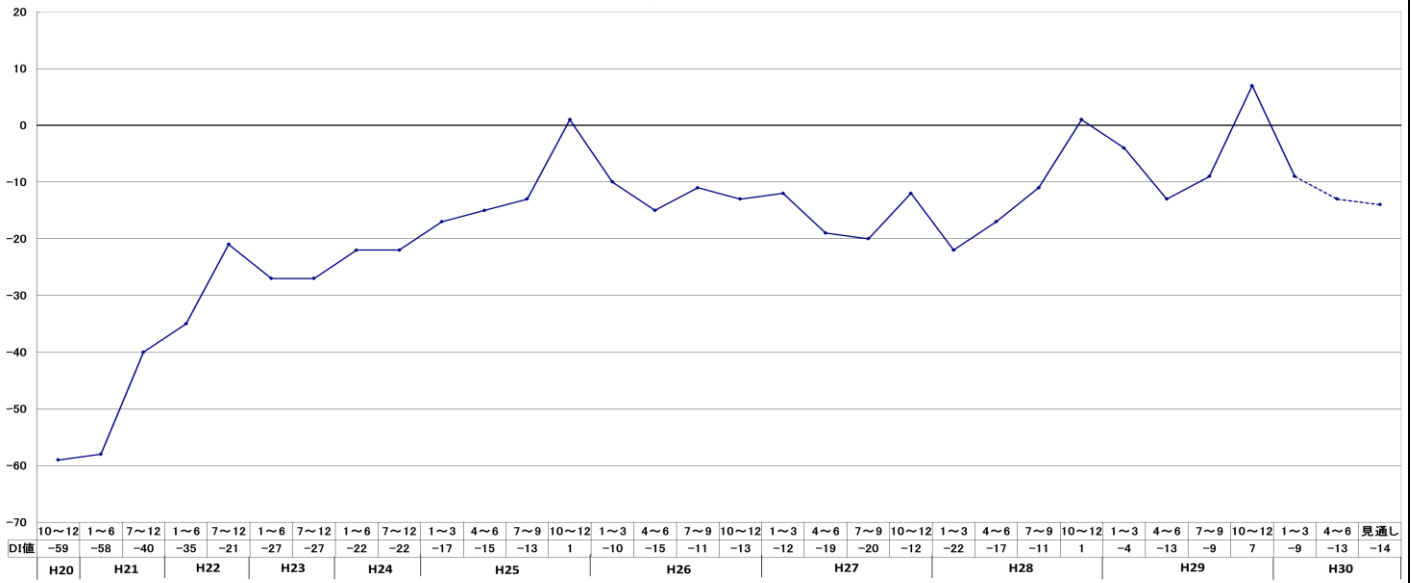
処理量DI



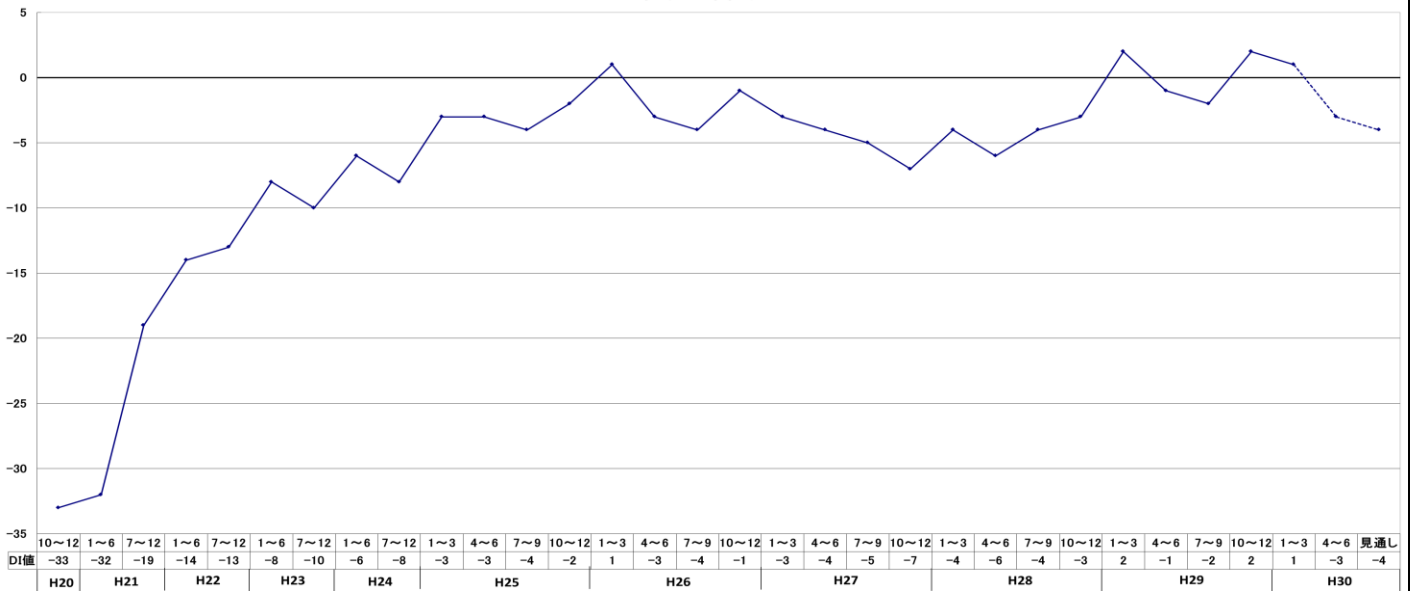
契約単価DI



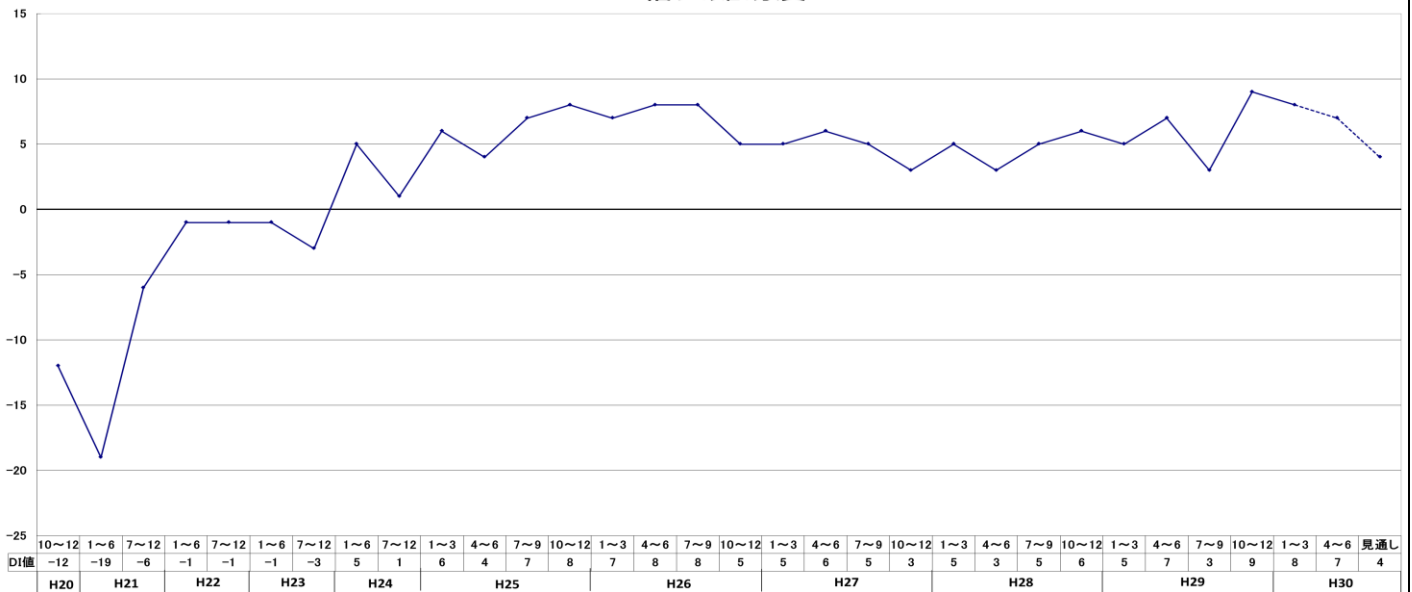
営業利益DI



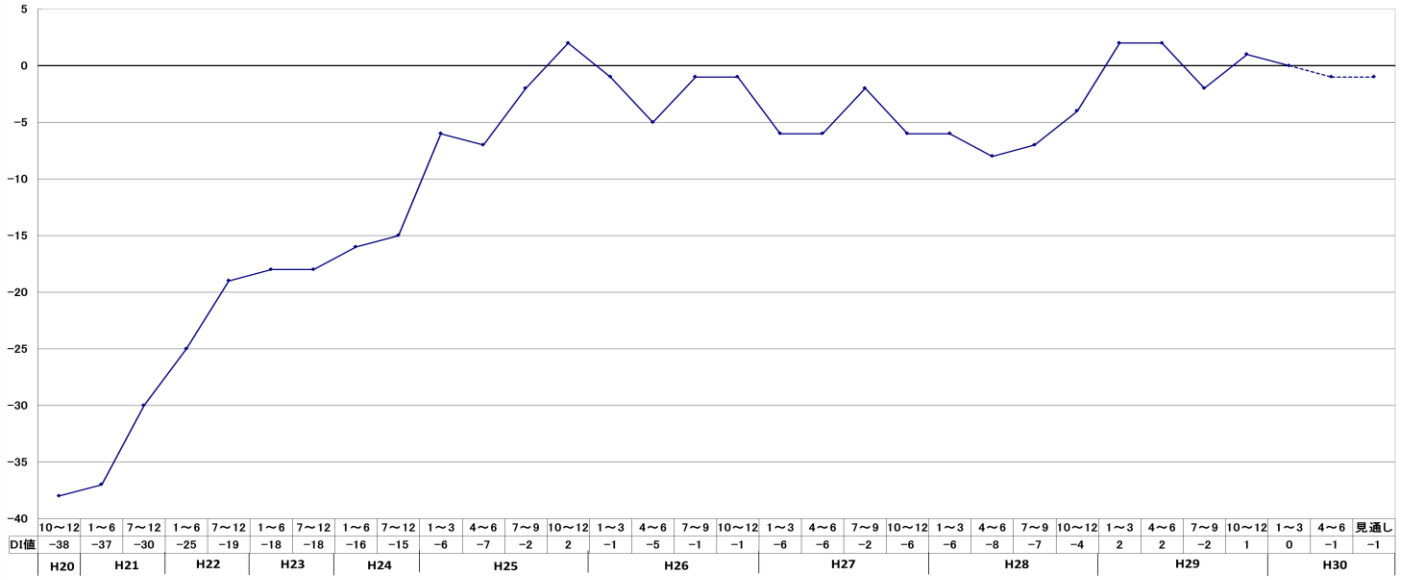
資金繰りDI



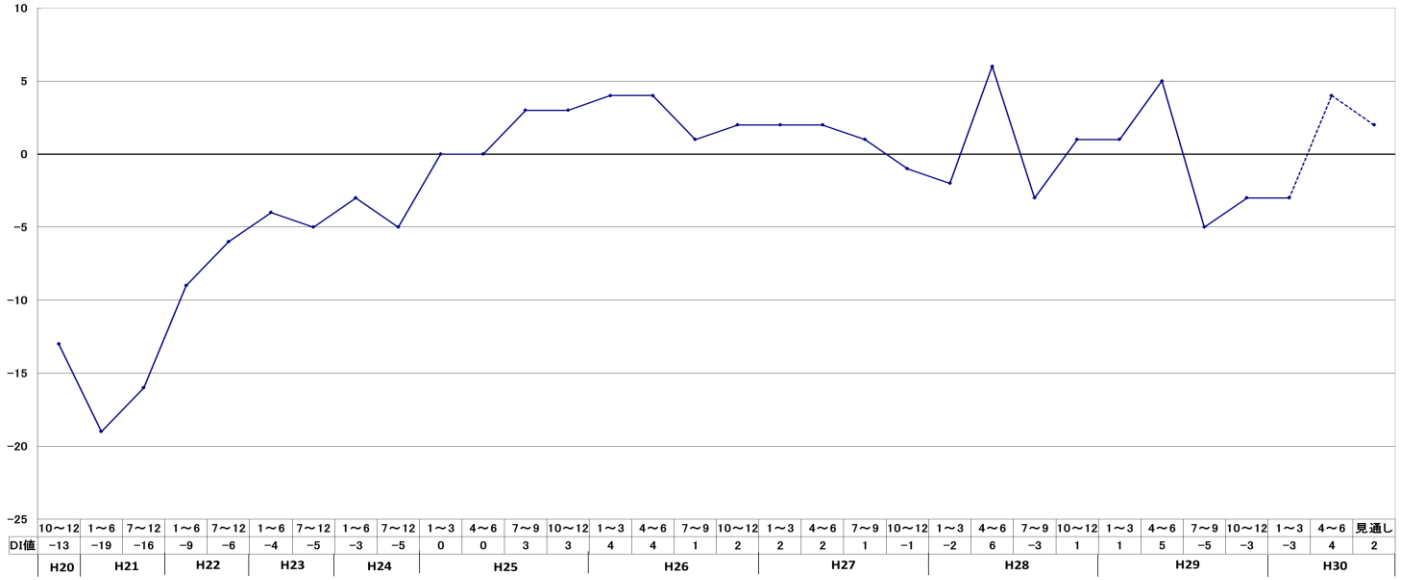
借入難易度DI



設備投資DI

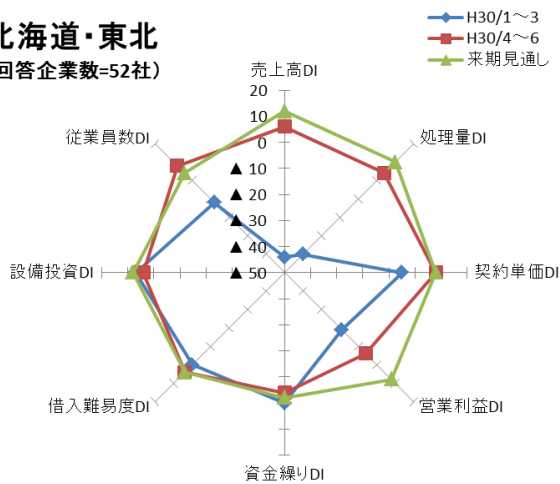


従業員数DI

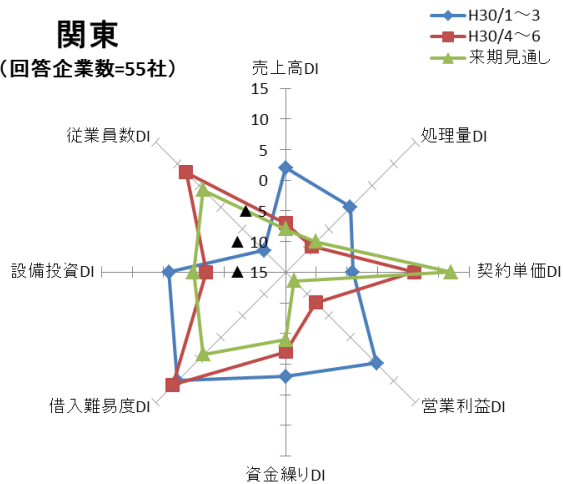


【地域別レーダーチャート】

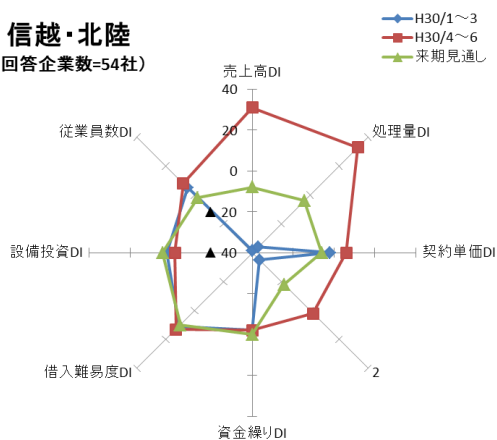
北海道・東北 (回答企業数=52社)



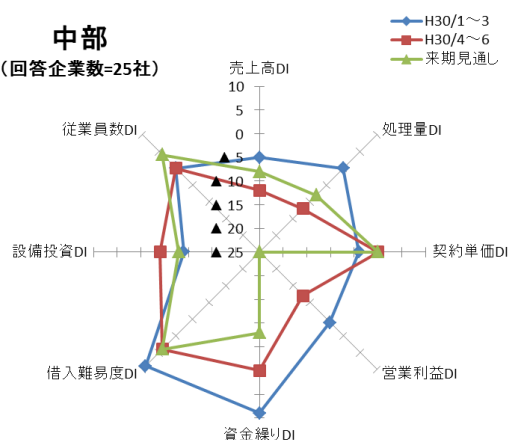
関東 (回答企業数=55社)



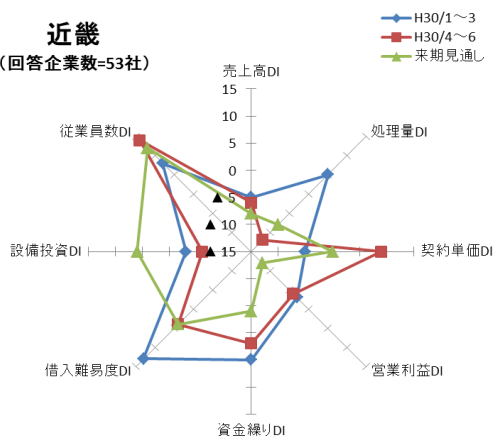
信越・北陸 (回答企業数=54社)



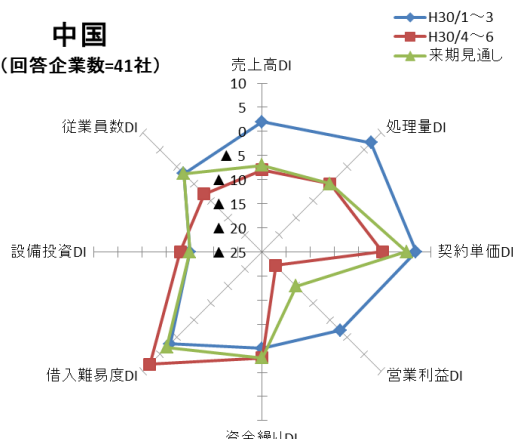
中部 (回答企業数=25社)



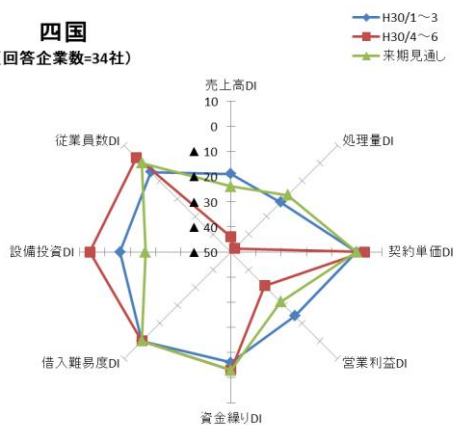
近畿 (回答企業数=53社)



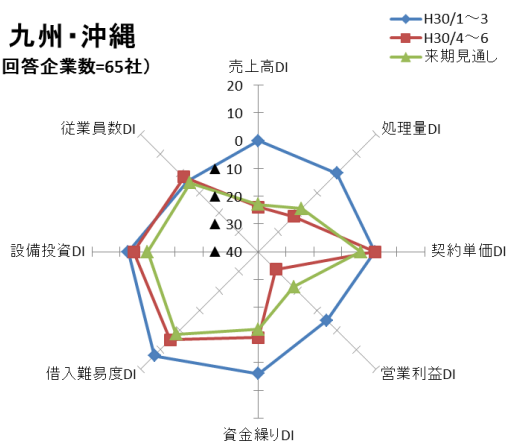
中国 (回答企業数=41社)



四国 (回答企業数=34社)



九州・沖縄 (回答企業数=65社)



3. 売上高の動向

○ 前年同期比（3ヶ月平均）では、7%増となった。

有効回答数：227社

単位：千円

	H29年4月	H29年5月	H29年6月	平均
全体	9,199,845	8,895,564	9,832,344	9,309,251
	H30年4月	H30年5月	H30年6月	平均
全体	9,833,803	9,655,334	10,434,862	9,974,666
前年比	7%	9%	6%	7%

4. 処理量の動向

○ 前年同期比（3ヶ月平均）では、4%増となった。

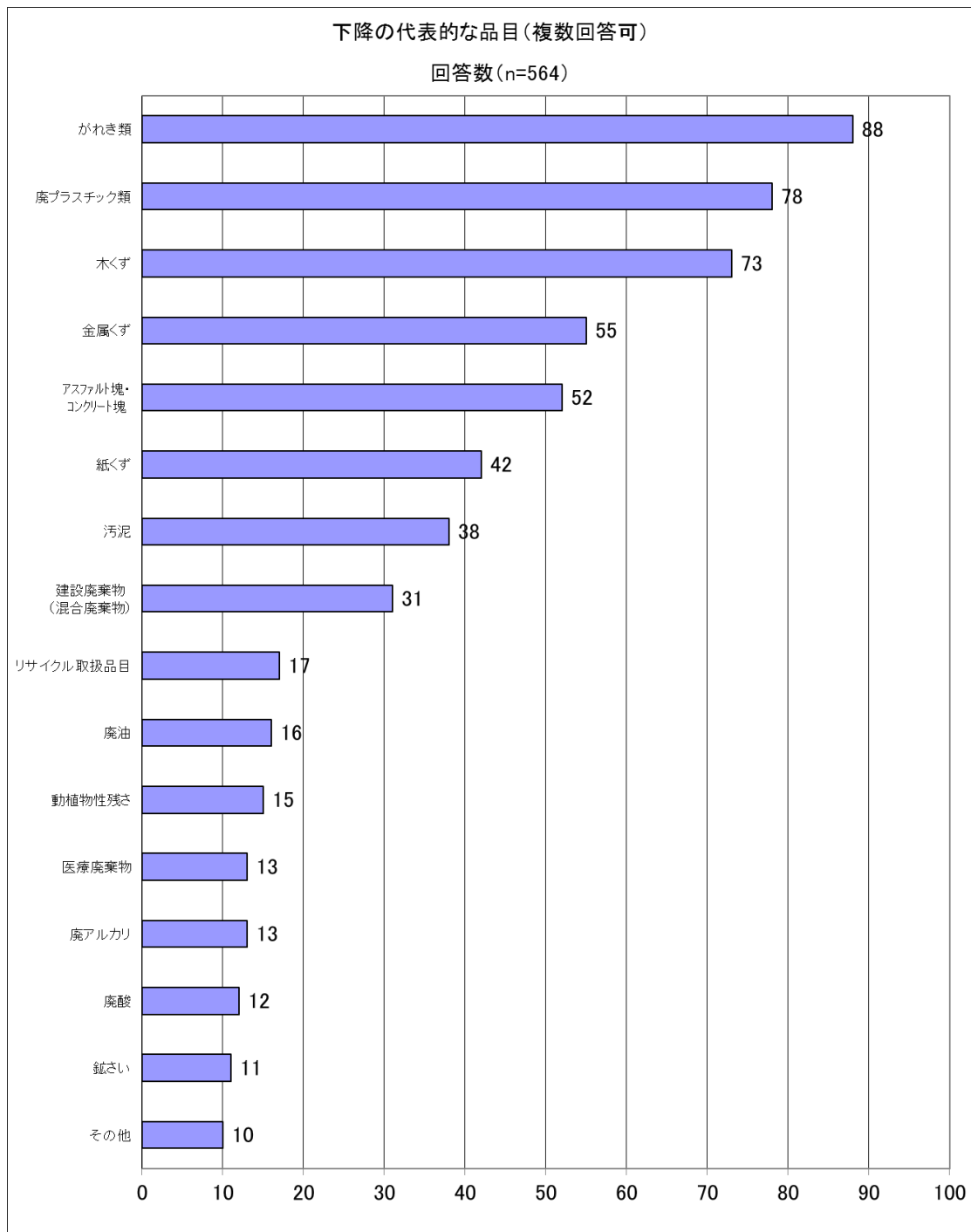
有効回答数：227社

単位：トン

	H29年4月	H29年5月	H29年6月	平均
全体	612,704	629,365	715,200	652,423
	H30年4月	H30年5月	H30年6月	平均
全体	679,411	655,283	691,794	675,496
前年比	11%	4%	▲3%	4%

5. 代表的な値下げ品目（複数回答可）

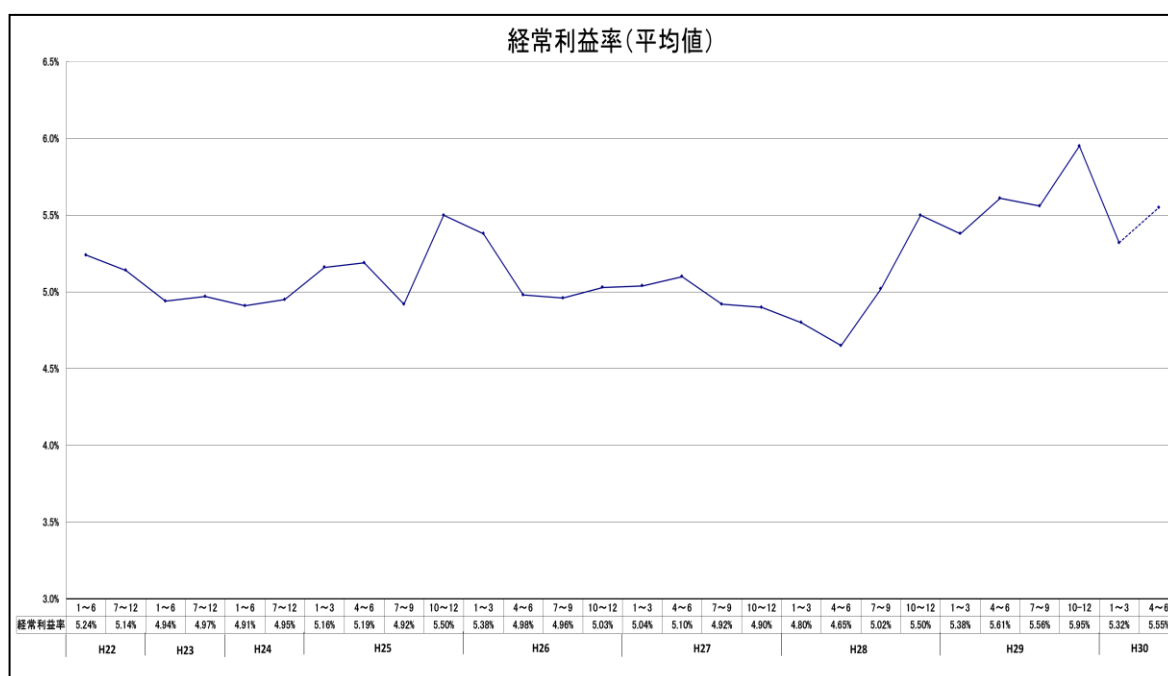
- 代表的な値下げ品目としては、1位「がれき類」、2位「廃プラスチック類」、3位「木くず」、4位「金属くず」5位「アスファルト塊・コンクリート塊」となった（前回調査1位「がれき類」、2位「廃プラスチック類」、3位「木くず」、4位「アスファルト塊・コンクリート塊」、5位「金属くず」）。
- 「がれき類」が3期連続で1位となった。



6. 経常利益率（経常利益の対売上高比率）

- 経常利益率の平均値（注1）は前回調査の5.32%から5.55%と改善した。
- 経常利益率をみると、「5%未満」との回答割合が32.7%、「5-10%未満」が15.8%、「10%以上」18.5%、「把握なし」33.0%となった（前回調査「5%未満」との回答割合が35.0%、「5-10%未満」が13.7%、「10%以上」17.3%、「把握なし」34.0%）。

平均値 ^(注1)	中央値 ^(注2)	最頻値 ^(注3)
5.55%	5-6%	10%以上



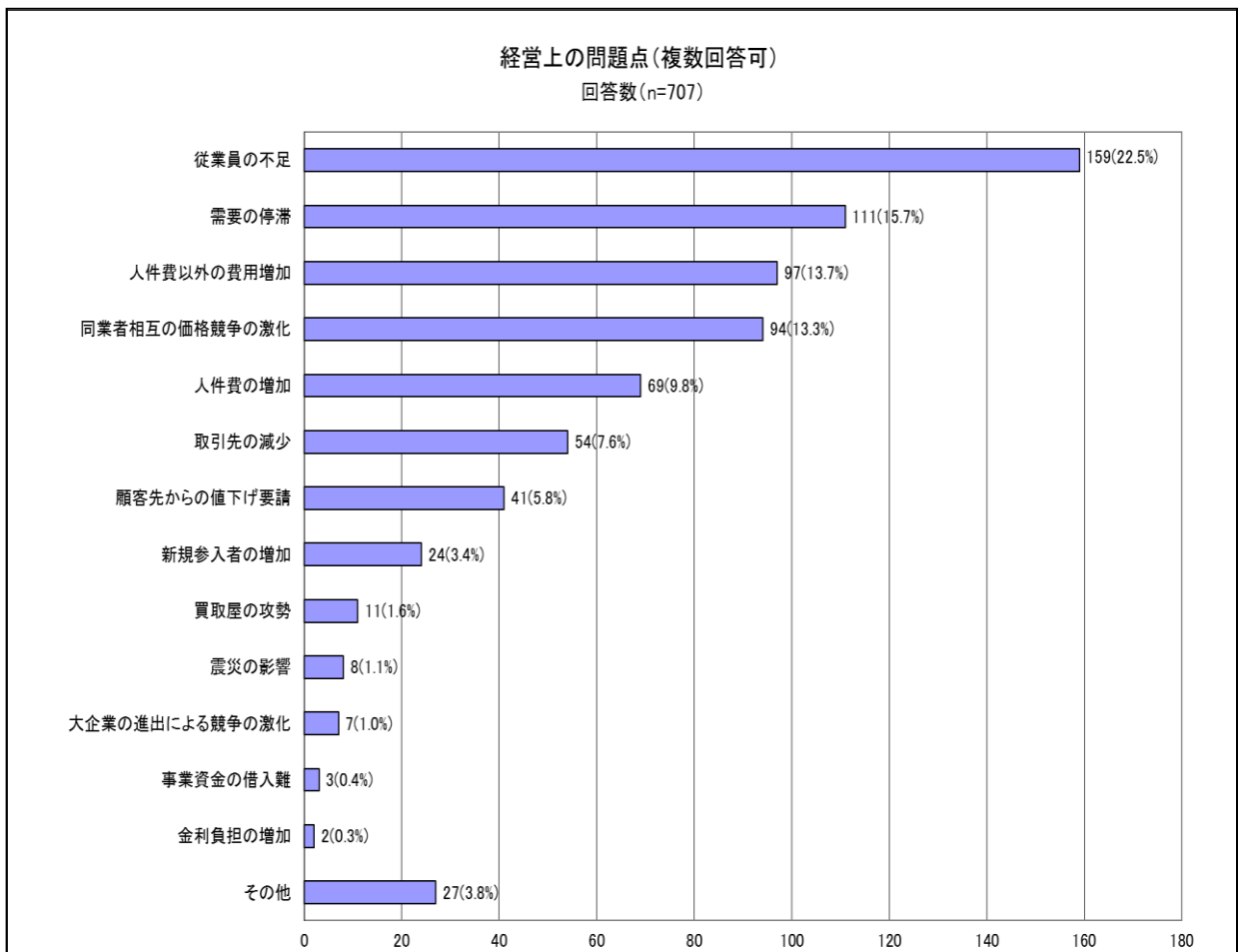
(注1) 平均値は、各選択肢の「代表値（各選択肢の幅の中間値）」×回答人数」を足した値を回答人数（把握なしを除く）の合計で割って算出する。なお、1%未満の代表値は0.5%、10%以上の代表値は10.5%とする。

(注2) 中央値は、回答（把握なしを除く）を昇順あるいは降順などの順番に並べて、中央に位置する値。

(注3) 最頻値は、最も回答人数（把握なしを除く）が多い値。

7. 経営上の問題点（複数回答可）

- 経営上の問題点としては、経営上の問題点としては、1位「従業員の不足」、2位「需要の停滞」、3位「人件費以外の費用増加」、4位「同業者相互の価格競争の激化」、5位「人件費の増加」となった（前回調査1位「従業員の不足」、2位「需要の停滞」、3位「同業者相互の価格競争の激化」、4位「人件費以外の費用増加」、5位「人件費の増加」）。
- 「従業員の不足」22.5%（前回22.2%）が4期連続で1位となった。
- 「人件費以外の費用増加」が前回の4位から3位に上昇した。修繕費、燃料費などのコスト負担増が企業活動に悪影響を及ぼしていることが窺える。



【その他の代表的な意見】

- ・人材確保（採用環境が厳しい）
- ・従業員の高齢化
- ・ドライバー不足
- ・修理費負担の増加（設備老朽化対応）
- ・燃料費の上昇
- ・中国の規制強化による影響
- ・最終処分費の値上げ
- ・原料品質の悪化
- ・顧客の要望の複雑化
- ・公共工事の減少
- ・需給バランスの崩れ
- ・法規制（県外産廃の搬入規制）

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、2008年10月-12月期の本調査において回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

「景況動向調査（2008年10月-12月期）」で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

平成30年7月12日～9月7日

(3) 調査方法

郵送によるアンケート

(4) 回答数・回答率

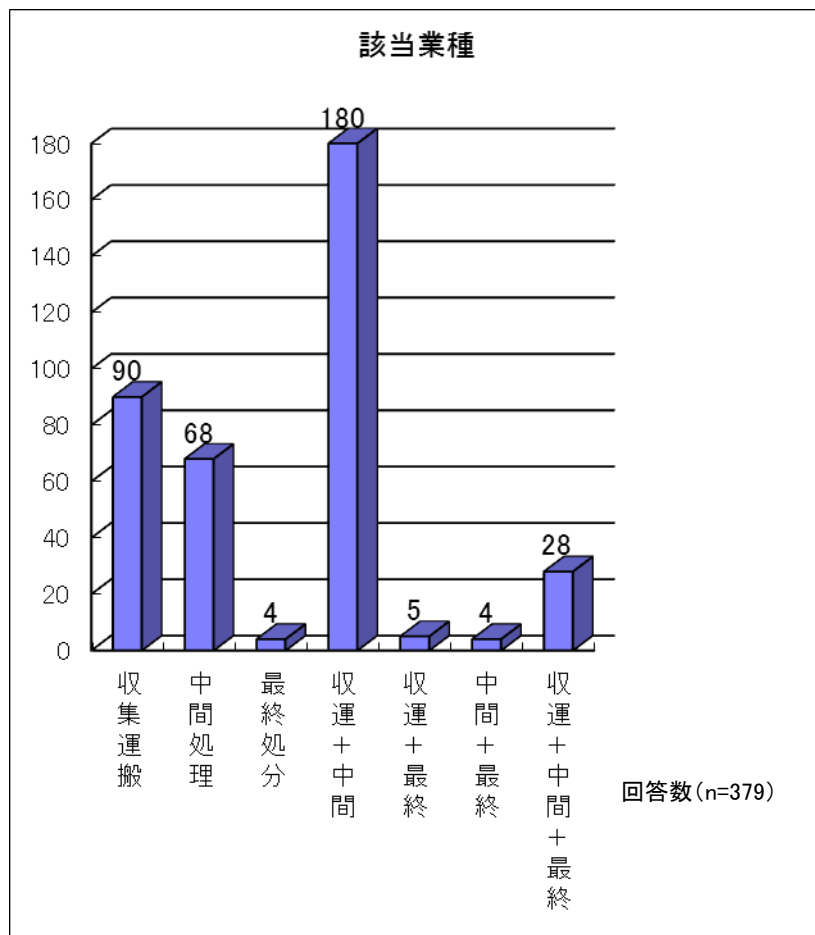
調査依頼企業数	1,046社
回答企業数	379社
回答率	36.2%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

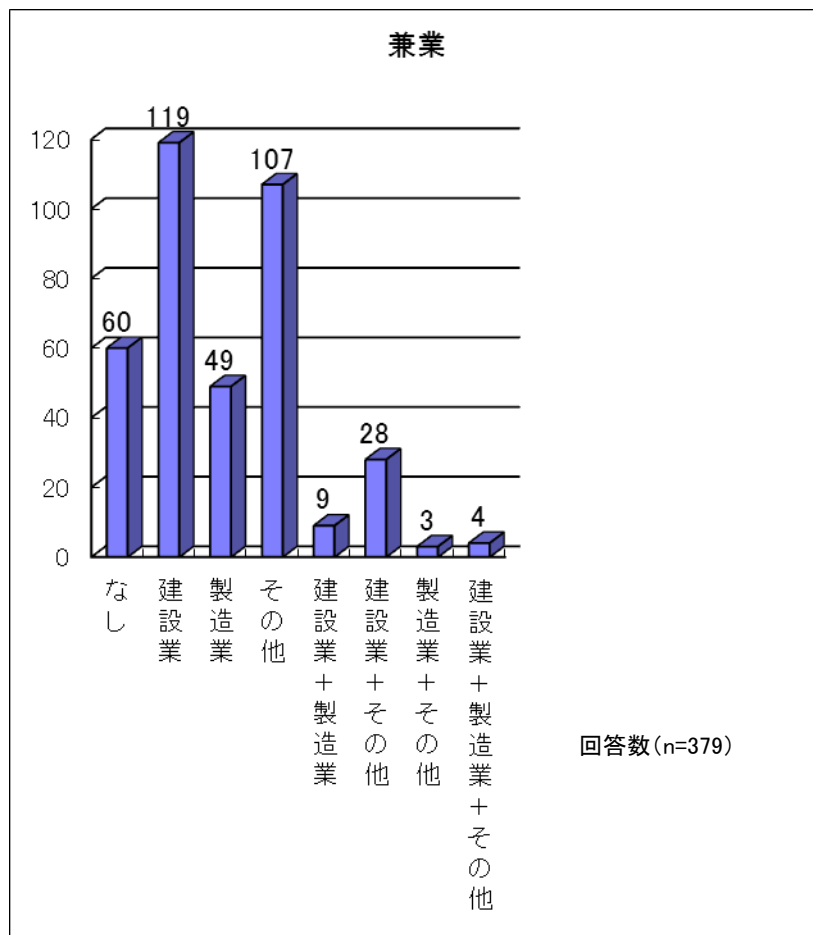
地域	企業数	構成比
北海道・東北	52	13.7%
関東	55	14.5%
信越・北陸	54	14.2%
中部	25	6.6%
近畿	53	14.0%
中国	41	10.8%
四国	34	9.0%
九州・沖縄	65	17.2%
合計	379	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	90	23.7%
中間処理	68	17.9%
最終処分	4	1.1%
収運+中間	180	47.5%
収運+最終	5	1.3%
中間+最終	4	1.1%
収運+中間+最終	28	7.4%
合計	379	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	60	15.8%
建設業	119	31.4%
製造業	49	12.9%
その他	107	28.2%
建設業+製造業	9	2.4%
建設業+その他	28	7.4%
製造業+その他	3	0.8%
建設業+製造業+その他	4	1.1%
合計	379	100.0%

○参考資料1(他業界との比較)

平成30年1月～平成30年6月(半期)の実績と来期の見通しについて、「建設業」及び「トラック運送業」の景況調査結果と本調査結果を比較。

※DIとは、「好転」・「増加」等とする企業割合から、「悪い」・「減少」等とする企業割合を差し引いた値。

〔景況感DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業	▲12	▲13	▲14
建設業(地元建設業界の景気)	14	▲2	▲9
トラック運送業	▲1	▲12	▲17

〔受注DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業(処理量)	▲11	▲7	▲7
建設業	6	▲13	▲25

〔資金繰りDI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業	1	▲3	▲4
建設業	13	12	12

〔借入難易度DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業	8	7	4
建設業(銀行等貸出傾向)	18	19	18

〔従業員数DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業	▲3	4	2
建設業(建設労働者の確保)	▲51	▲48	▲54
トラック運送業(労働力の不足感)	68	66	72

〔収益DI〕

	前期	今期	来期の見通し
	H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業(営業利益)	▲9	▲13	▲14
建設業	1	▲16	▲28
トラック運送業(経常損益)	▲9	▲15	▲20

出典:平成30年度第1回建設業景況調査【北海道建設業信用保証株式会社・東日本建設業保証株式会社・西日本建設業保証株式会社】のデータに基づき連合会がDI値を算出。DI値の算出方法は、BSI値を2倍にして算出する。

出典:第102回のトラック運送業界の景況感(速報)【公益社団法人全日本トラック協会】のデータに基づき連合会がDI値を算出。DI値の算出方法は、「大幅増加」・「やや増加」等とする企業割合から、「大幅減少」・「やや減少」とする企業割合を差し引く。

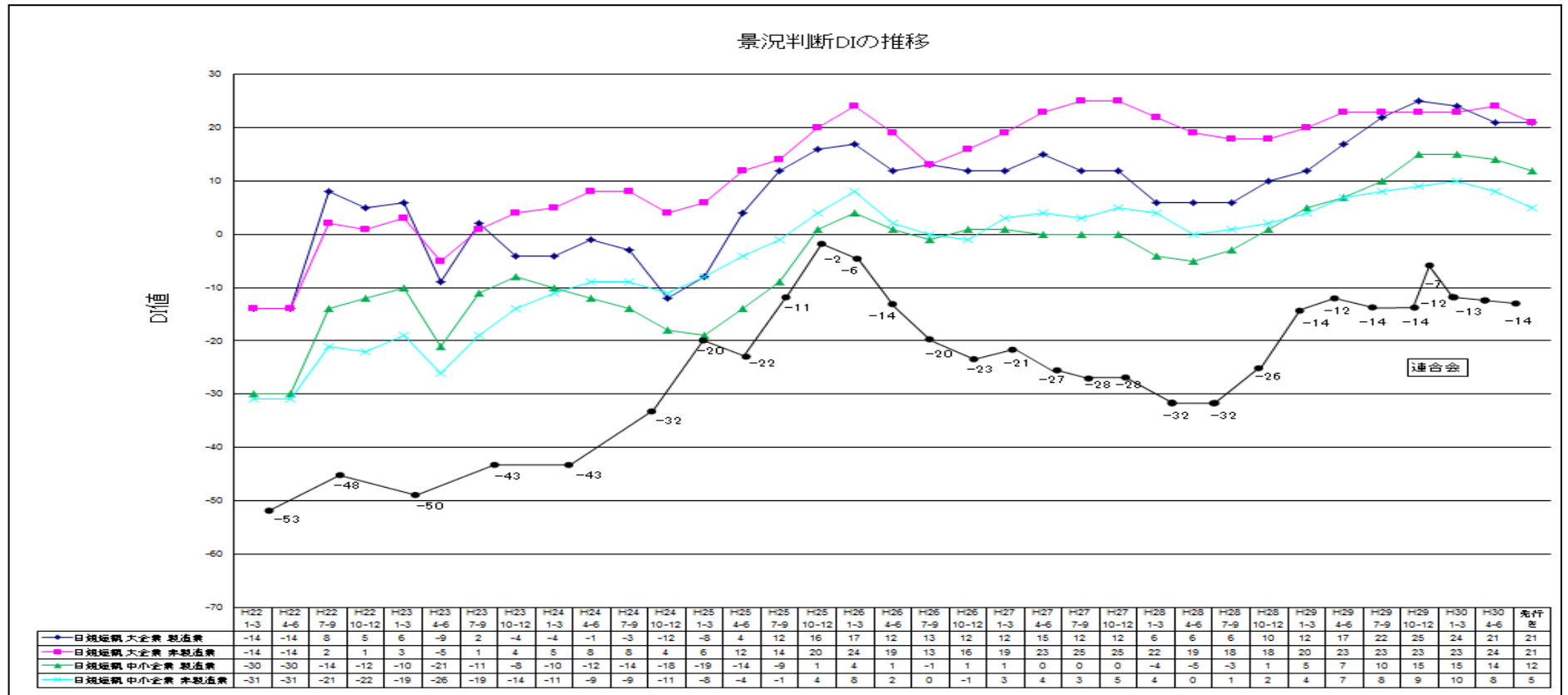
○参考資料2(日銀短観との比較)

平成30年1月～平成30年6月(半期)の実績と先行きについて、日本銀行が公表する「短観(全国企業短期経済観測調査)」と本調査結果を比較。

※DIとは、「好転」・「増加」等とする企業割合から、「悪い」・「減少」等とする企業割合を差し引いた値。

〔景況判断DI〕

		前期	今期	先行き
		H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業		▲12	▲13	▲14
日銀短観	全規模 全産業	17	16	13
	大企業 製造業	24	21	21
	大企業 非製造業	23	24	21
	中小企業 製造業	15	14	12
	中小企業 非製造業	10	8	5



〔資金繰りDI〕

		前期	今期
		H30/1-3	H30/4-6
産業廃棄物処理業		1	▲3
日銀短観	全規模	17	18
	大企業	23	24
	中小企業	12	13

〔借入難易度DI〕

		前期	今期
		H30/1-3	H30/4-6
産業廃棄物処理業		8	7
日銀短観	全規模(貸出態度判断DI)	25	25
	大企業(貸出態度判断DI)	27	26
	中小企業(貸出態度判断DI)	22	21

〔設備投資DI〕

		前期	今期	先行き
		H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業		0	▲1	▲1
日銀短観	全規模(生産・営業用設備判断DI)	▲5	▲5	▲6
	大企業(生産・営業用設備判断DI)	▲4	▲4	▲3
	中小企業(生産・営業用設備判断DI)	▲6	▲6	▲8

〔従業員数DI〕

		前期	今期	先行き
		H30/1-3	H30/4-6	H30/7-9
産業廃棄物処理業		▲3	4	2
日銀短観	全規模(雇用人員判断DI)	▲34	▲32	▲36
	大企業(雇用人員判断DI)	▲18	▲16	▲17
	中小企業(雇用人員判断DI)	▲37	▲35	▲40